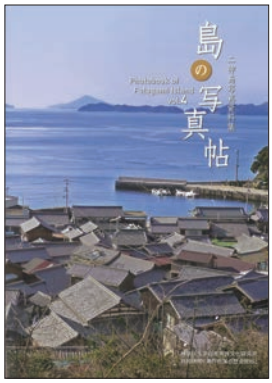
日本常民文化研究所　資料集

二神島　豊田造船所資料集

● 2018 年 3 月刊行
瀬戸内海二神島にかつて存在していた豊田造船所に関連する資料の調査および関係者への聞取りを通して、和船の建造から洋式船の建造へと移行した造船所の事績をたどる。写真資料、造船に関わる様々な紙資料、板図やその他の船図面、船大工道具等を総合的に扱った資料集。



島の写真帖　vol. 4
二神島写真資料集

● 2018 年 7 月刊行
本資料集は、共同研究「瀬戸内海の歴史民俗」の一環として行われた、二神島住民によって撮影された島の行事、生業、暮らしの諸相の写真の収集の成果を、テーマごとに整理してまとめた写真資料集の 4 冊目にあたる。「資料としての写真」の可能性について記した「「生活写真引き」の可能性」（田上繁）を付す。

国際常民文化研究機構　刊行物

国際常民文化研究叢書 12
―東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究―
［写真記録 CD 付］

● 2018 年 3 月刊行
公募型共同研究「東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究」グループによる研究成果報告書。日本の各地、沖縄、中国の伝統的木造船の実地調査にもとづく、船の建造と操船技術に関する比較研究の成果を豊富な図版を交えて報告している。

第 22 回常民文化研究講座・国際研究フォーラム

アジア民具研究の可能性―民具体系と生活構造の比較から―

● 2018 年 12 月 8 日（土）・9 日（日）　　会場：神奈川大学横浜キャンパス　3 号館
本研究所では民具研究を主題にした比較的規模の大きなシンポジウムを過去 3 回、「“ モノ ” 語り―民具・物質文化からみる人類文化―」（2010.12.11・12）、「渋沢敬三の民具研究」(2013.11.9)、「渋沢敬三の資料学―日常史の構築―」（2014.3.19）開催し、いつの時代、いつの地域においても大多数を占める普通の人々、“ 常民 ” の暮らしを明らかにするための一級資料としての民具、その分析視角や方法を検討してきた。その中で、地域における生活構造、民具体系としての認識、身体との関係性など、その背景の理解の必要性が痛感された。今回は、民具の形態と機能さらに象徴に関わる問題系に焦点を当て、東アジア地域 (日・中・韓・台湾・東南アジア・極東ロシア) を事例にして民具研究の可能性・有効性を論議する機会とした。

第 1 日目　12 月 8 日（土）　場所：3 号館 305 講義室　10:00～17:00
■対談　「民具とは―道具の人間化・人間の道具化―」10:00～12:00
川田順造（日本常民文化研究所客員研究員）
聞き手　佐野賢治（日本常民文化研究所所員）
■報告 I ：生産生業と民俗技術　13:00～15:00
「アイヌおよび隣接する北方先住民にみる民具体系の諸相」大塚和義（日本常民文化研究所客員研究員・国立民族学博物館名誉教授）
「国境地帯のハニ／アカの農耕用具の研究」楊六金（中国・紅河学院教授）
moderator：川野和昭（南方民俗文化研究所主宰・国際常民文化研究機構共同研究者）
■報告 II ：民具誌から見る地域社会の生活構造　15:15～17:00
「民具から見る中国江南一農村の生活誌」張正軍（中国・華東理工大学教授）
「韓日磯漁漁具の比較研究―広域体系から見たその変動と民俗文化論」呉昌炫（韓国・国立民俗博物館学芸研究士）
moderator：佐々木長生（福島県民俗学会長　国際常民文化研究機構共同研究者）

第 2 日目　12 月 9 日（日）　場所：3 号館 205 講義室　10:00～15:00
■報告 III ：民具の機能・形態・象徴　10:00～12:00
「中国における女神神話と少数民族を偶像化した語り―「網袋」と「縄」の象徴を焦点に」　金善子（韓国・延世大学校中国研究院専門研究員）
「新規性と保守性という観点から台湾原住民族の道具と行動との関係を考える」野林厚志（国立民族学博物館教授）
moderator：眞島俊一（テム研究所長・国際常民文化研究機構共同研究者）
■総合討論　13:00～15:00
司会：神野善治（武蔵野美術大学教授・国際常民文化研究機構共同研究者）
山田昌久（首都大学東京教授・国際常民文化研究機構共同研究者）
※報告のテーマは変更することがあります。
共同開催　神奈川大学日本常民文化研究所　国際常民文化研究機構
後援　（公財）渋沢栄一記念財団 渋沢史料館　道具学会　日本生活学会
日本生活文化史学会　比較民俗研究会　一般社団法人 アジア民族文化学会

お問い合わせは
日本常民文化研究所　TEL 045-481-5661　内線 4358

非文字資料研究センター　新刊のご紹介

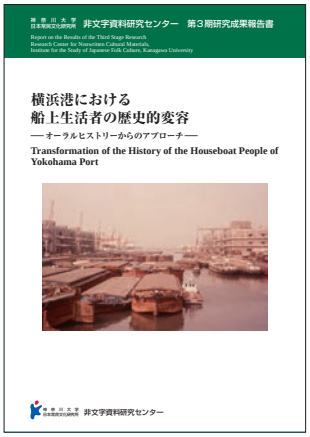
非文字資料研究センター　第３期研究成果報告書
汽水の生活環境史

本書は非文字資料研究センターにおける第３期（2014 年度～16 年度）共同研究の成果報告書である。本共同研究の目的は、日本列島上にさまざまに展開する汽水域の文化について列島の生活環境史として総合化することで、「汽水文化」を提唱することにある。また、非文字資料研究の方法として、生活環境史の手法を開拓することも併せて研究の目的とした。本書第１部は研究メンバーによるオリジナルな論考、第２部は共同調査地の調査概報を集成している。　　紹介者　安室　知（神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科）

● 2018 年３月 31 日刊行
● 目次

共同研究「汽水の生活環境史」概要と経過　安室　知
第１部　論文編
第１章　シロウオ漁の生活誌　川島　秀一
第２章　アユのエサ釣り漁―南四国の調査から―　常光　徹
第３章　海の汽水域
―汽水文化研究の拡大を目指して―　松田　睦彦
第４章　迷入陥穽漁法の起源と展開
―スタデの大型化と潮流の影響をめぐって―　安室　知
第５章　運河が拓いた行商の道
―島根県・恵曇の魚商人―　山本　志乃
第２部　調査報告編
１　四万十川の漁業と今起こっていること　安室　知
２　本庄の漁業と流通
―中海周辺の漁業と暮らし 1―　山本　志乃
３　彦名の藻葉とりと暮らし
―中海周辺の漁業と暮らし 2―　山本　志乃
４　十三湖のシジミ　常光　徹
５　太田川の川漁　川島　秀一
６　伊里前川のシロウオ漁　川島　秀一
７　北上川河口域における葦　松田　睦彦

非文字資料研究センター　第３期研究成果報告書
横浜港における船上生活者の歴史的変容―オーラルヒストリーからのアプローチ―
Transformation of the History of the Houseboat People of Yokohama Port



「船上生活者の実態とその変容に関する研究」共同研究班による、横浜港での３年間の調査成果を纏めた資料集。第１部には、戦時、戦後の横浜港の港湾輸送を支えた人々のオーラルヒストリーを収録した。第２部には、1970 年代に横浜の運河を調査、研究した神奈川大学高木幹朗研究室のスライドフィルム資料 226 点を掲載した。その他、付録として艀船図面や艀船生活者所蔵の写真資料も掲載し、横浜港における船上生活者の実態とその変容を、様々な非文字資料を通じて浮かび上がらせる。

● 2018 年９月 30 日刊行
● 目次

まえがき
年表
地図１　1945（昭和 20）年の横浜港と運河
地図２　1976（昭和 51）年の横浜港と運河
地図３　1984（昭和 59）年の横浜港と運河
第１部　オーラルヒストリー編
１　戦後横浜の港湾業　―藤木幸夫さん―
２　戦後横浜港の港湾荷役業　―堀内利通さん―
３　戦後の回漕業と艀船主・機帆船主　―石渡順一さん―
４　戦時戦後の船上生活者（1）　―河合正美さん、川口久江さん、島田ひで子さん、坂井芳子さん―
４　戦時戦後の船上生活者（2）　―河合正美さん、川口久江さん―
４　戦時戦後の船上生活者（3）　―河合正美さん―
第２部　写真資料編
解題　高木幹朗研究室スライドフィルム資料について
高木幹朗研究室スライドフィルム資料
高木幹朗研究室スライドフィルム目録

非文字資料研究センター　研究成果報告書
日本近世生活絵引　南九州編

1815（文化 12 年）年春、薩摩藩主・島津重豪（しげひで）から将軍・徳川家斉に絵巻５巻と書物５冊が献上された。藩内の名勝を計 102 の絵画に仕立てた『薩摩藩勝景百図』とその解説書『薩藩勝景百図考』である。19 世紀前半に薩摩藩で編まれた三つの地誌の一つで、現在その副本が東京大学史料編纂所にて国宝島津家文書の一部として所蔵されている。本書は、この『薩摩藩勝景百図』の副本から近世の南九州の生活文化を見出し得る 29 の絵画を選定し、「絵引」の形で編纂したものである。同時に他の二つの官撰地誌の挿絵や関連する数種の絵画も参考絵図として収録し、「絵引」の理解が広がり深まるよう努めた。

● 2018 年２月 28 日刊行
● 内容

Ⅰ　薩摩勝景百図の概要
Ⅱ　鹿児島城下
Ⅲ　薩南の港
Ⅳ　街道の様子
Ⅴ　苗代川と金山
Ⅵ　寺社と名所
Ⅶ　参考資料
解題と考察
参考文献目録
索引